

\\ 新任 Dr.のご紹介 //



京都第一赤十字病院

第一日赤 90年の歩み、変わらぬ使命

日本赤十字社

KIZUNA

京都第一日赤だより

増刊号
2024.8

開催報告



6年ぶりの分科会の開催、本会、懇親会ではにしむらこどもクリニック院長 西村 康孝先生より、お祝いのお言葉を頂戴しました。多くの皆様にご参加を頂き、院外165名 / 院内78名の参加となり、盛況のうちに無事に終えることが出来ました。



今後のイベント

2024度がん患者・家族の会「かけはし」開催プログラム

----- 2024年 -----
9/18(水) 10/9(水) 11/6(水) 12/11(水)
----- 2025年 -----
1/15(水) 2/12(水) 3/12(水)
京都第一赤十字病院 多目的ホールBで開催

詳細はこちら



第27回東福寺がん診療連携ワークショップ

2024年 9/12(木)
18:15~20:00
ホテルグランヴィア京都で開催

詳細はこちら



お申込みはこちら



第11回 NST 講演会

2024年 10/25(金)
17:30 ~ 18:30
「ZOOM ウェビナー」による web 配信

詳細はこちら



お申込みはこちら



第11回京都第一赤十字病院看護フォーラム

2024年 11/16(土)
14:00~16:00
京都第一赤十字病院 5階 多目的ホールで開催

お申込みはこちら



京都第一赤十字病院

京都市東山区本町 15-749 TEL: 075-561-1121
地域医療連携室【直通】TEL: 075-533-1280 FAX: 075-533-1282



病診連携懇話会



院長 大辻 英吾 Eigo Otsuji

初診外来：完全予約制の廃止について

今年4月に院長に就任して以来、「京都で一番の基幹病院」をスローガンとして、患者様から信頼される病院づくりに取り組んでおります。その実現には医療安全の向上と健全な病院運営が必要です。

医療安全は病院運営で最も重要な業務と位置づけて、医療安全管理委員会を中心に万全の態勢で医療事故の防止に努めています。また、健全な病院運営には地域連携の推進が必要です。今後は地域医療支援病院としての役割を充分果たすために、比較的状态が安定している外来患者様については、できる限りかかりつけ医への逆紹介を推進致します。また、かかりつけ医から紹介された患者様が当院を受診しや

すいように、8月1日から初診外来の完全予約制は廃止して、予約のない初診患者様も診察できるように致しました。その場合でも予約患者様の診察が優先されますので、予約のない患者様はお待たせする可能性があることをご了承ください。患者様の待ち時間を短くするために、引き続き地域連携室からの予約やネット予約(e連携)をお願いします。

4月の人事異動で約60人の医師が新しく当院に赴任致しました。京都第一赤十字病院が患者様から信頼され愛される病院であるために、職員全員が一丸となって努力いたしますので、ご支援をお願い申し上げます。



地域連携室担当副院長

上島 康生

Yasuo Ueshima

信頼感のある連携をめざして

今年度より地域医療連携を担当させていただいています。平素は前方、後方連携ともに、連携医療機関の皆様方にはご理解ご協力を賜り、心よりお礼申し上げます。

現在、取り組んでおりますのが、ご紹介いただく際の不応需をなくすこと、Web予約開始に合わせた、予約枠拡大など利便性の改善、逆紹介の推進、新設された救急患者連携搬送料届け出病院として機能することで、いずれも信頼関係を大切にして、患者様、連携医療機関、当院のいずれにもメリットのある関係をめざして参ります。

今後も当院との地域連携をよろしくお願い申し上げます。

医療社会事業部長・地域連携室長

高階 謙一郎

Kenichiro Takashina

スムーズで切れ目のない医療を

先日開催された京都第一赤十字病院の地域連携懇話会に、多くの関係医療機関の皆様にご参加いただき、感謝申し上げます。

地域包括ケアシステムの推進には、地域医療連携が不可欠です。患者様に急性期から慢性期にわたりスムーズで切れ目のない医療を提供するためには、医療機関の連携と役割分担が重要です。私も救命救急センター長を兼任し、前方連携や救急患者連携搬送も含めた後方連携に深く関わる責任を感じています。

今後とも、皆様のご期待に応え頼れる地域連携室を目指して努力してまいりますので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。



京都府南部の リウマチ・膠原病診療を 一緒に支えていきましょう



リウマチ・膠原病疾患を疑うべき症状・所見

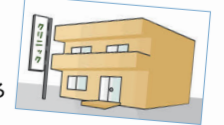
症状	検査所見
<ul style="list-style-type: none"> 持続する発熱（抗菌薬で改善しない発熱） 原因のはっきりしない関節痛、関節炎 持続性蛋白尿・血尿 原因のはっきりしない皮疹 しびれ 筋力低下、筋の疼痛 繰り返す口内炎 Raynaud現象 安静時に悪化して、運動時に軽快する腰痛 ドライアイ、ドライマウス 	<ul style="list-style-type: none"> 持続的な血尿・蛋白尿 原因不明の炎症反応上昇（CRP、赤沈） 炎症反応（CRP、赤沈）が上昇しない発熱 胸部レントゲンでの間質性肺炎 胸部レントゲンでの胸水貯留 胸部レントゲンでの心嚢液貯留

リウマチ・膠原病診療における病診連携

● クリニックかかりつけ医と病院勤務医（リウマチ専門医）

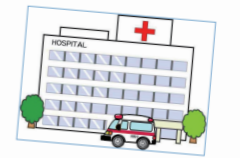
> クリニックかかりつけ医の強み

- ✓ 内科 or 整形外科領域全般の知識を持っている
- 内科・整形外科の全般的な医療を提供できる
- 患者さんにより近いところで必要なことを見つけられる
- ✓ ほぼ毎日外来診療をしている
- 患者さんにとっての安心感



> 病院勤務医（リウマチ専門医）の強み

- ✓ リウマチ・膠原病領域の知識と経験をもっている
- ✓ 検査設備を持っている
- ✓ 入院受け入れ可能



リウマチ内科 部長

和田 誠 Makoto Wada

当院リウマチ内科および総合内科は関節リウマチ患者さんが約1000名、膠原病患者さんが約1000名と合計約2000名の患者さんが通院される京都では2大学病院に次ぐ規模のリウマチ・膠原病領域の基幹病院です。リウマチ・膠原病疾患は、長く続く発熱や関節の痛み、倦怠感など非特異的な症状から診断に至ることが多く、これらの疾患を疑った段階で気軽にご紹介頂けたらと考えています。

治療については、昨今、生物学的製剤や分子標的薬を始めとする新規薬剤が多く登場し、治療内容も大きく変化し、患者さんの予後も大変良くなってきています。しかし、予後の改善は、長期的な患者ケア、免疫抑制に伴う感染症対策、疾患の長期合併症のケアなどやるべきことが大幅に増えていることにつながっています。

このように予後の良くなったリウマチ膠原病患者さんの一生を我々リウマチ専門医だけで支えることは難しくなっています。そこで地域の先生方に御協力頂きながら京都府南部のリウマチ膠原病診療をみんなで支えていく方法についてディスカッションできればと考えています。

高度かつ安全な手術治療を提供します

—ロボット手術も、腹腔鏡手術も—



消化器外科 部長

岡本 和真

Kazuma Okamoto

患者様にも紹介医にも安心と満足を

ロボット手術指導医、腹腔鏡技術認定医などの高度技能を持ったスタッフが臓器ごとに配置され、ご紹介患者様それぞれに最適の治療を提供します。患者様にはきっと満足して先生方の元に戻って頂けるものと自負しております。



消化器外科 副部長

生駒 久視

Hisashi Ikoma

我々のこれから

今年4月、京都府立医科大学附属病院 消化器外科の主要メンバーであった大辻英吾教授、岡本和真元准教授、栗生宜明講師、そして私、生駒久視は京都第一赤十字病院に赴任しました。移動に伴い、現在取り組んでいるロボット支援下肝切除術についてお話しさせていただきました。

この手術を行うには、厚生労働省の施設基準や学会指針を満たす必要があります。当院には、肝胆膵外科学会の高度技能指導医が1名、4月からは2名から5名に増えた内視鏡外科学会の技術認定医がおり、これらの要件を十分に満たしています。そして、当施設は肝胆膵外科学会の高度技能修練施設として認定されています。全国の修練施設全体での高難度手術の平均周術期死亡率は全国の病院全体の平均死亡率より低い

傾向にあることもお話ししました。さらに、私が行っている手術前の患者さんの不安を和らげる説明についても触れました。

質疑応答の際、座長の上島先生から「大学からこれだけスタッフを引き抜いてきたが、大学は大丈夫なのか？」という質問がありました。とっさにはうまく答えられなかったため、この場を借りて回答させていただきます。「昔から優秀な人間は自分より優秀な人間を後継者に育てて去ると言われます。我々は、大学に残っている後輩たちのこれからの活躍によって評価されると思います。だから、大学に残った後輩たちの成長と成功を心から願っています。」これが私の回答です。今後も私たちは新しい環境で努力を続けますが、残っている後輩たちにエールを送り、この文章を締めくくります。